



Profile

椿泊漁業協同組合

徳島県南部東端に位置し、明治の世から令和まで連綿と漁が続けられてきた椿泊の地。今、県南地域に分散している漁港の出荷機能を椿泊漁港に集約し、岸壁や輸送施設等を整備する長期計画が進行中だ。これによって、効率的な出荷が可能となり、魚の価格や流通コストの拡大が期待されている。



人を育て、海を守り 水産資源の安定供給に力を尽くす

椿泊漁港は、紀伊水道と太平洋の合流地点で県内でも有数の好漁場となっている。漁師にとって、漁場は、魚という宝を生み出す場所。1年を通じて、有志が海岸のゴミを拾い、毎年秋には、漁協の婦人部や椿泊婦人会が中心となり、一斉清掃を実施している。

椿泊漁協に所属する漁師は、20代の若手漁師から80代のベテラン漁師まで、幅広い。一部、跡継ぎは育っているものの、平均年齢は60歳前後と、若い世代の養成は急務となっており、徳島県の取り組みである意欲ある担い手を育てる『とくしま漁業アカデミー』の卒業生を受け入れ、研修を行っている。

椿泊漁協では、水産資源の安定的供給を果たし、持続可能な漁業を行うため、アワビやヒラメの稚貝や稚魚の放流、クルマエビの中間育成など、魚をつくり、育てる漁業にも力を注ぐ。また、資源管理型漁業を行い、魚種によって禁漁期間を設けている。長年続けている阿南市の給食への魚の提供も、未来ある子どもたちに「魚の魅力や美味しさを知ってほしい」という思いがあればこそ。令和4年、漁業アカデミーから一人の漁師が椿泊漁協所属となり、独り立ちした。また、もうまもなく一人の漁師が新たな一歩を踏み出す予定だ。多くの先人たちが繋いできた漁という生業(なりわい)を、未来へとつなげていく。